

教育センター学びの丘長期研修員研修における学びについて

海南省立異小学校

教諭 松尾竜典

「教育センター学びの丘長期研修員の概要について」に示した研修の概要を基に、一年間の学びについての所感を述べる。

修養では、理論を学んだ上で実践につなげていく大切さを学んだ。これまでは、研修等を受講してもすぐに使える手立てばかりを求め、なぜその手立てが有効なのかを考えないまま実践してきた。しかし、経年研修等、様々な研修を聴講したことで、今日的教育課題解決のために、求められていることや必要なものは何かを踏まえた上で、どんな手立てが用いられるかを思考することができるようになってきた。今では、行う手立てについて、その手立てを選んだ根拠を説明することができる。研修講座や研修員研修を通して、理論を基に手立てを講じていく素地ができた実感している。

研究では、学習指導要領の改訂で導入された小学校外国語科において、CAN-DO リストを活用して「思考力、判断力、表現力等」の育成をめざす授業づくりを行った。研究を通して様々な知識を得て実践することができ、指導力の向上を図ることができたと感じている。また、提案授業では、言語を使って何ができるようになるのかを授業者と児童が共有し、見通しをもって授業に取り組む効果を明らかにすることができた。

この1年間を通して、共に学び、意見を出し合った研修員同士の関わりにより、教員としての生き方に大きな変化が生じたと感じる。それは教員としての様々な取組に対し、主体的に取り組んでいきたいと考えるようになったことである。今後は、率先して学びを深めたり新しいことに挑戦したりしていきたい。そして、ミドルリーダーとして学校全体へ学んだことを還元していけるように努めていきたいと思う。

